優秀賞

僕が生まれた日

青森県 東北町立東北中学校一年　遠藤 龍希

僕が生まれた日は、帝王切開という手術のために、生まれる二ヶ月前から決まっていました。

そんな僕の誕生日は、平成二十三年三月十一日。東日本大震災が起きた日です。

僕は十七時二十一分に生まれました。僕の手術が始まる十分前に東日本大震災が起き、地震のあと先生と看護師さんとお母さん、お父さんたちで話し合ったそうです。病院の中は物が散乱して、電気も消えた状態でした。

みんな大きな地震におどろいて、大変なことが起きたと思い、別の日に手術をしようと考えていたとき、携帯電話でニュース映像を見たそうです。そこに映ったのは津波で家や建物が流されていく映像でした。外ではとんでもないことが起きていると知ったそうです。これでは手術がいつできるかわからなくなると先生とお父さんとお母さんは思いました。

だから、病院の電気が補助電力に切り替わったときにすぐに手術を始めることにしました。

余震が続き、病院も揺れている中で僕は生まれました。生まれたとき、先生や看護師さんたちは、

「おめでとう、本当に良かった。」

とお父さん、お母さんに言ってくれたそうです。

生まれた僕を看護師さんはすぐに保育器に入れ、何度も余震が続く中、僕を守ってくれました。

もし、手術ができていなかったら、僕は無事に生まれてこなかったかもしれないし、保育器がたおれていたら、僕はどうなっていたのだろうと考えることがあります。

先生や看護師さんたちにも守りたい家族がいて、早く病院から帰りたい、すぐに会いたいと思う人もきっといたはずです。

でもそんな中でも、僕が生まれるお手伝いをしてくれた先生、僕が無事に生まれるようにと思ってくれた看護師さんたちがいて、今僕はここまで大きくなることができました。

僕が生まれた話を、お父さんやお母さんから聞いて、僕は病院で働くたくさんの人たちに助けてもらったんだと感謝したい気持ちになります。

だから、僕はこれからも自分の命を大切にして生きていきたいです。そして、僕が無事に生まれるようにとたくさんの人に助けてもらったように、困っている人がいたら助けるという気持ちを忘れずに、生きていこうと思います。